

太陽 ASG グループ
第 5 回「中堅企業経営者の意識調査 - 景況感 - 」
～世界 32 カ国同時調査～を公表
日本の景況感は地方だけがマイナス

太陽 ASG グループ（グラント・ソントン加盟事務所）は、2006年10月～12月にかけて実施した非公開企業を中心とする中堅企業経営者の意識調査の結果を公表した（従業員数100人～750人）。この調査は、グラント・ソントン加盟主要32カ国が実施する世界同時調査の一環である。

後一息で景況感がプラスに

わが国の2007年に向けての景況感は、依然としてマイナスであるが-5%まで回復した。過去5年の景況感としては最も明るい数値である。

<各年に対する景気予測>

2007年： - 5
 2006年： - 14
 2005年： - 27
 2004年： - 46
 2003年： - 71

大都市の景況感はすでにプラス 11.2

企業の所在地別に見ると、大都市圏ではすでに+11.2の景況感である。3大経済圏以外の政令指定都市（札幌市、仙台市、静岡市、広島市、北九州市、福岡市）ではさらに高く+18.2となっている。一方、地方都市の景況感は-14.9である。景気は大都市圏を中心に回復し、地方都市との間に大きな落差が生じている。

大都市圏	+ 11.2	* 所在地分布企業の比率	
東京・名古屋・大阪	+ 9.1	3大経済圏	40%
政令指定都市	+ 18.2	政令指定都市	13%
その他の地方都市	- 14.9	その他の地方都市	47%

個別企業の業容見通しはすでにプラス状況に

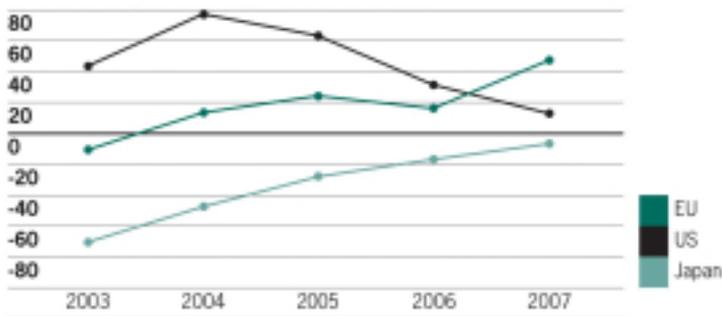
販売価格の見通しを除き、企業の業容見通しは、すべてプラスである。2006年との対比で大きく改善したのは、売上高の予測+31（2006年+14）である。設備投資も昨年の+31に続き、+26と経営への積極姿勢が認められる。雇用は過去5年で最高の+18を記録し、今後家計部門へのプラス効果の波及が期待される。販売価格-6のみマイナスを記録し、まだデフレ脱却を確認するに到らず、その結果、収益見通しも+2と低い水準の見通しである。

日本の中堅・中小企業経営者の事業に対する見通し（単位：％）

	2003	2004	2005	2006	2007
景況感	-71	-46	-27	-14	-5
売上高	-2	6	27	14	31
販売価格	-24	-50	-25	-14	-6
輸出	1	5	4	4	4
雇用	-36	-4	16	13	18
収益性	0	-15	4	-6	2
新築建物	-2	10	19	17	18
設備投資	-8	23	29	31	26

米国・EU・日本3大経済圏の景況感比較

3大経済圏景況感 年度別推移

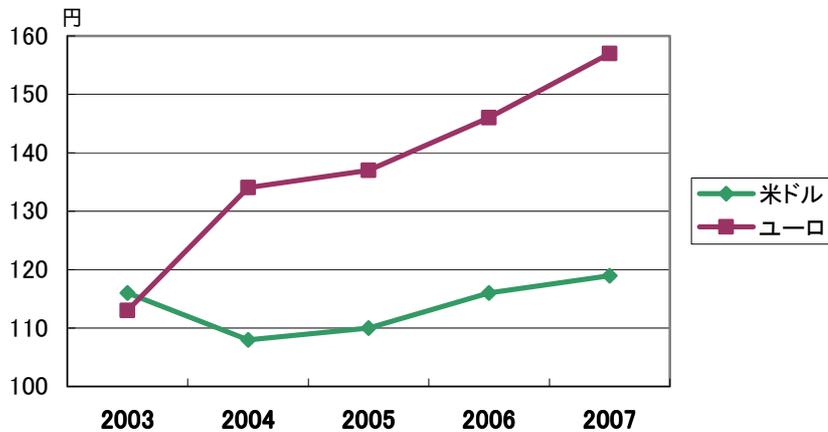


戦後、世界の製造業を牽引してきた日本経済復活の状況は、世界各国で高い関心の的である。グラント・ソントン・インターナショナルは、今回の調査でメイン・ニュースの一つに米国、EU、日本の景況感の年度比較をレポートした。2003年にマイナスの景況感からスタートしたEUは、一環して景況感を改善しており、2004年のピークを境に下落し続けている米国の景況感と好対照をなす。

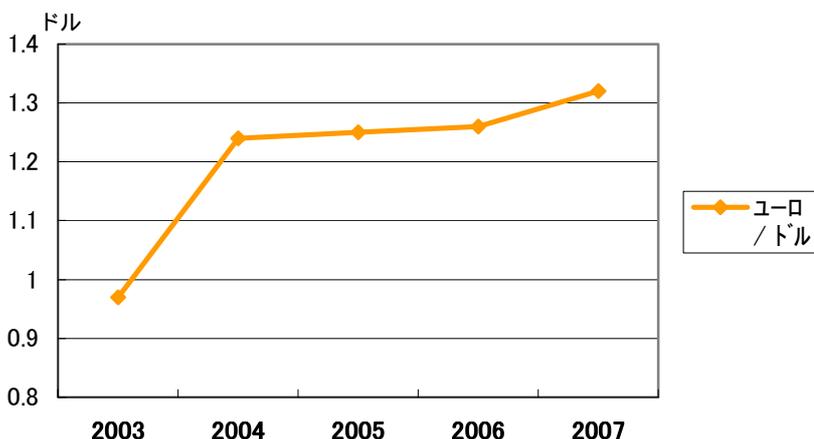
景況感・為替・金利

ユーロの為替相場はEUの景況感の復活と軌を一にして上昇した。米ドルは対ユーロで下落したが、対円では、ドル高・円安を容認している。

対円 米ドル・ユーロの推移表



対ドル ユーロの推移表



日本の景況感の回復カーブは、EUのカーブの後追いを持續しているが、為替では、円は対ユーロ、対米ドル共に下落している。米国の双子の赤字問題があるにせよ、米国、EUが円安を容認するのは、早期に日本経済の本格的回復を期待するものとみて差し支えない。低金利の結果としての円安相場は、現在の日本経済を牽引するグローバル企業の収益源として追い風効果となっているが、金融政策は今後、地方経済の復活を支えることにその重心が移行することになる。

米ドル・ユーロ・円 為替相場 TTB (単位：円)

	2003年平均	2004年平均	2005年平均	2006年平均	2007年年初
米ドル	116	108	110	116	119
ユーロ	113	134	137	146	157
ユーロ/ドル	0.97ドル	1.24ドル	1.25ドル	1.26ドル	1.32ドル

(三菱UFJリサーチ&コンサルティング 為替相場より)

G7とBRICs各国の景況感

BRICs各国の景況感は絶好調で、上位に並ぶ。EU諸国でも、昨年落ち込んだ英国、フランス、イタリアがそろって景況感を持ち直した。EUの上昇観を象徴するドイツは、5年連続景況感を改善した。イラク問題をひきずる米国とデフレから脱却しきれない日本が、これら11カ国中の下位となった。

G7・BRICs各国の景況感

	2003	2004	2005	2006	2007
 インド	25%	83%	88%	93%	97%
 中国				77%	85%
 ドイツ	-37%	-6%	17%	41%	66%
 カナダ	41%	62%	72%	57%	60%
 ロシア	17%	31%	14%	21%	57%
 ブラジル					47%
 英国	4%	49%	46%	8%	43%
 フランス	2%	4%	19%	1%	30%
 イタリア	-15%	7%	7%	-8%	21%
 米国	42%	78%	62%	32%	14%
 日本	-71%	-46%	-27%	-14%	-5%

第5回「中堅企業経営者の意識調査」コメント

日本大学法学部教授
稲葉 陽二

前回は引き続き、今回も日本の慎重な見方が際立った結果になっているが、これは日本のオーナー経営者が、健全な対応をしている証とみるべきであろう。中堅企業のオーナー経営者は、利益率重視の経営への転換、大企業の調達方針の変更、中国を含めた海外市場の変化、少子高齢化による国内市場の構造変化など、他国以上に長期的・構造的な問題への対応を求められてきた。加えて、オーナー経営者は大部分が団塊の世代以上だから、後継者問題も深刻だ。また、市場が大きな構造変化に直面しているなかで、長期的な視点からどう投資をしていくかの判断も難しい。エネルギーをはじめ原材料価格が高騰する一方で、コスト削減を求められてもいる。アンケート結果でも売上高の見通しは大きく改善しているが、販売価格や利益の見通しはそれに追いついていない。利益なき繁忙の可能性もあるなかで、新築建物やその他の投資についてはここ4年間プラスを維持している点は、むしろ高く評価すべきではないか。おそらく、研究開発についての問があれば、もっと前向きな姿がみられたかもしれない。他国の結果をみると、アメリカからEU諸国への主役交代がみられる。その一方で、中国、インドの景況感は相変わらず良好だが、これがいつまでも続くとは思えない。日本の企業は、人口減のなかで、輸出に頼る他ないが、対象とする市場によって業績に差がでるのではないか。国内では、地方との格差がはっきり出ているが、国内・国外ともに、対応の違いによって良いところもあれば、相変わらず芳しくないという企業もあるという、まだら模様が続くとも読める。

太陽 ASG グループ
マーケティング・ディレクター 浜村 浩幸

米国は、経済成長の陰りと政治不安の時期に直面しており、11月の中間選挙、上院の政党交代、住宅バブル崩壊、およびイラク戦争に対する反動の現れは、2007年のビジネス予測に深刻な影響を与えている。

一方、EUの景況感の上昇は、昨年の経済成長やドイツなどでの経済改革に起因していると考えられる。

EUの強さがユーロの強さにも如実に現れている。

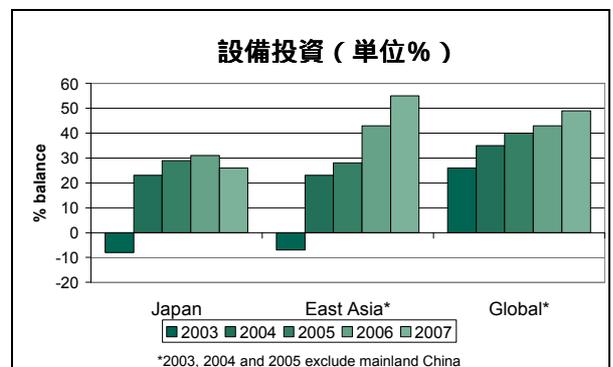
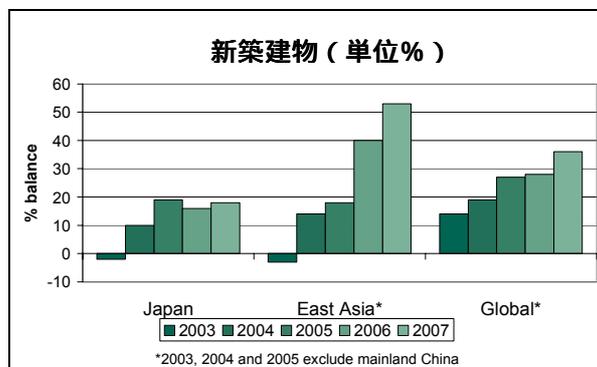
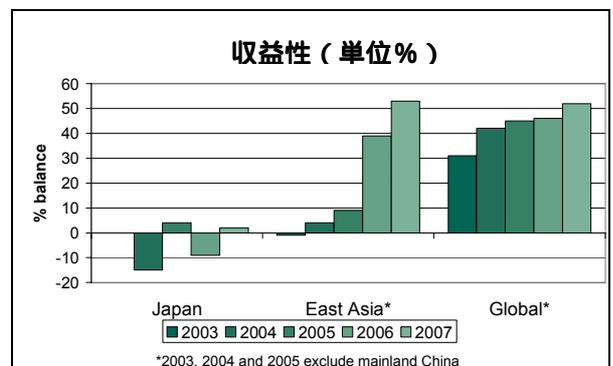
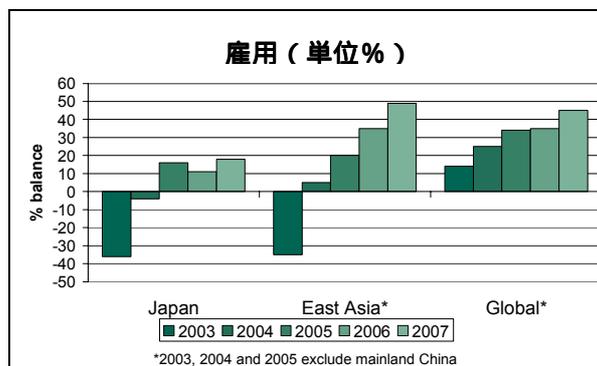
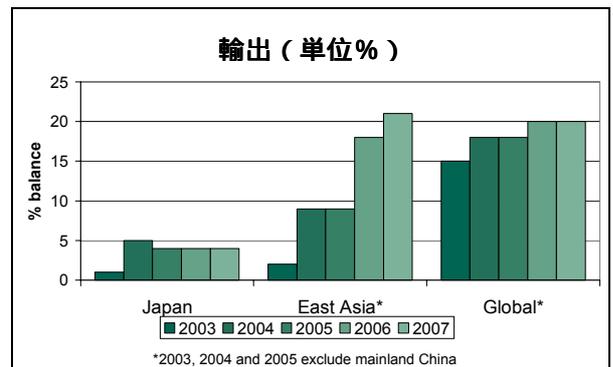
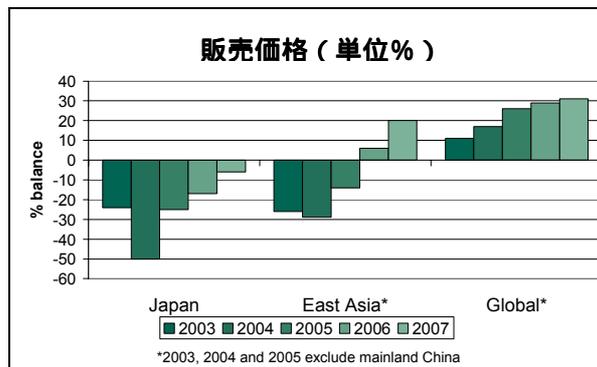
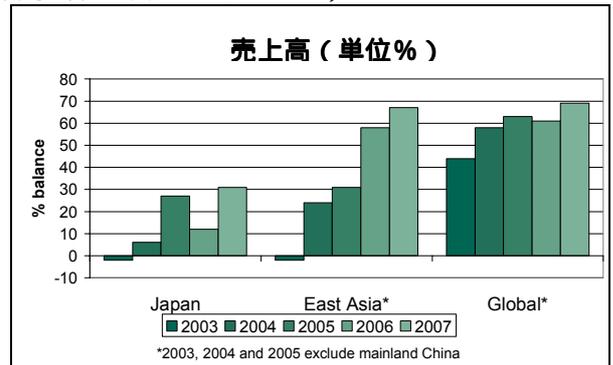
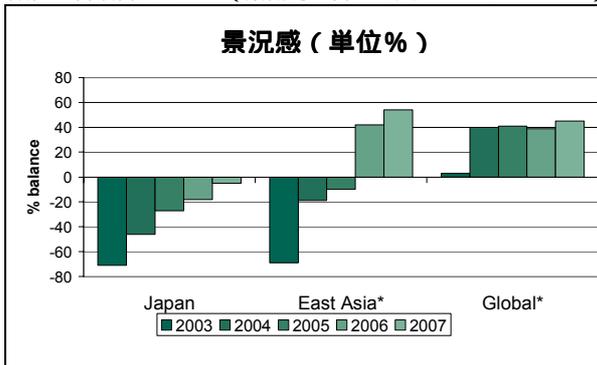
為替も、円の水準を適正な範囲にしていくための利上げも必要だと思われるが、今回の日銀の利上げ見送りは、グローバルな視点より日本の地方経済への配慮がなされた結果と思われる。

日本の景況感がマイナスである要因が地方経済であることは、今回の調査でも裏付けられているが、参議院選挙を控え、国内問題を優先させていいのか、少し疑問が残るところである。

米国、EU、日本に対して、インドや中国など新興経済国の景況感は、比べものにならないくらい高い。

<参考資料1> 今後1年の自社の見通し(日本) 単位:%

数値は各項目について(楽観的と答えた人のパーセンテージ) - (悲観的と答えた人のパーセンテージ)



< 参考資料 2 > 各国中堅企業経営者の景況感

	2003	2004	2005	2006	2007
 インド	25%	83%	88%	93%	97%
 フィリピン		-1%	50%	71%	88%
 中国				77%	85%
 シンガポール	-8%	-30%	62%	64%	84%
 アイルランド	-9%	7%	79%	84%	82%
 オランダ	-11%	6%	31%	63%	81%
 南アフリカ	34%	72%	84%	80%	74%
 香港	-30%	51%	60%	61%	69%
 スウェーデン	19%	24%	52%	51%	67%
 アルゼンチン				62%	66%
 ドイツ	-37%	-6%	17%	41%	66%
 メキシコ	28%	23%	47%	68%	62%
 オーストラリア	50%	81%	78%	64%	61%
 カナダ	41%	62%	72%	57%	60%
 ロシア	17%	31%	14%	21%	57%
 アルメニア					57%
 ウクライナ				7%	49%
 ブラジル					47%
 スペイン	-19%	49%	9%	14%	43%
 英国	4%	49%	46%	8%	43%
 ポーランド		-32%	21%	26%	42%
 ニュージーランド		49%	64%	23%	42%
 ボツワナ				-12%	41%
 マレーシア				36%	38%
 タイ				9%	30%
 フランス	2%	4%	19%	1%	30%
 ギリシャ	14%	29%	29%	1%	27%
 イタリア	-15%	7%	7%	-8%	21%
 米国	42%	78%	62%	32%	14%
 トルコ		36%	49%	58%	0%
 台湾		22%	14%	-19%	-3%
 日本	-71%	-46%	-27%	-14%	-5%
EU平均	-12%	15%	23%	17%	46%
NAFTA平均	42%	73%	61%	37%	22%
東アジア平均	-69%	-19%	-10%	-4%	6%
32カ国平均	3%	40%	41%	39%	36%

中堅企業経営者の意識調査 - 概要

- 実施期間： 2006年10月16日（金）～12月5日（火）
- 参加国数： 32ヶ国
- 調査対象： 7200名の世界の中規模・大規模の公開企業ビジネスリーダー、または経営トップ
- 調査実施会社： 日本では株式会社日経リサーチが日本国内における調査を実施。32カ国同時調査の一貫性保持のため、国際的な調査会社である Harris Interactive と Experian Business Strategies Limited が取りまとめを行った。
- 調査方法： 日経リサーチ社所有の事業所データベースから、従業員数100～750人の全国の中堅・中小企業をランダムに5000社抽出し、郵送によるアンケート調査を実施。375社（回答率：7.5%）の回答を得た。
- 分析手法： バランス統計手法 DI（Diffusion Index）：
景気判断DI「良い」との回答比率から「悪い」との回答比率を引いた指数
本リリース中の数値は、各項目について（楽観的と答えた人のパーセンテージ） - （悲観的と答えた人のパーセンテージ）

グラント・ソントン インターナショナルでは「中堅企業経営者の意識調査」の回答1件につき、5USドルをユニセフ（unicef）に寄付しています。2007年度調査の寄付金は35,000USドルを上回りました。

太陽 ASG グループ（グラント・ソントン加盟事務所）

- 所在地： 東京都港区赤坂8-5-26 赤坂DSビル9F
- 代表： 本田親彦（公認会計士）
- グループ会社： 太陽ASG監査法人、ASG税理士法人、ASGマネジメント株式会社、ASGアドバイザーズ株式会社
- URL： www.gtjapan.com

太陽ASGグループは、世界110カ国、520箇所以上の拠点をネットする国際会計事務所「グラント・ソントン」の加盟事務所です。2006年1月1日付太陽監査法人とASG監査法人が合併し、新たに太陽ASGグループを構成しました。国際水準の監査の他、オーナー系企業・中堅企業への各種業務・コンサルティングサービスの提供についてはトップクラスの実績を誇ります。

<太陽ASGグループが提供する事業領域>

監査・保証業務、IPO、内部統制、公益法人・財団法人、アドバイザリサービス、税務戦略・税務サービス、国際税務、企業評価・事業評価、M&A・コーポレートファイナンス、ファミリービジネス・事業承継、外資系企業サービス、財務業務管理システム

グラント・ソントン

グラント・ソントンは世界第6位にランクされるグローバルな会計事務所グループであり、オーナー企業および独立系企業を中心に監査、税務、その他会計コンサルティングサービスを提供しています。世界110カ国、520箇所以上の拠点、2200名のパートナー、22,000人の従業員を擁します。各グラント・ソントンの拠点は、全世界で共通の高品質なサービスの提供にコミットしており、クライアントの全世界あらゆる場所におけるビジネスの展開をサポートします。

日本では太陽ASGグループ（太陽ASG監査法人、ASG税理士法人、ASGマネジメント株式会社、ASGアドバイザーズ株式会社）が、グラント・ソントンの日本メンバーとして世界水準を導入した会計コンサルティングサービスを提供しています。

本件に対する問い合わせ先

太陽ASGグループ マーケティング・コミュニケーション 担当マネージャー 田代知子

TEL：03-5770-8860（直通）

FAX：03-5770-8830

email：t-asgMC@gtjapan.com